



special feature

ポスト  
コロナの  
大学生活

econ. no.46

Hokkai-Gakuen University Faculty of Economics

## ～ 求められる授業のあり方、大学生活のカタチ ～



●司会 / 社会経済学  
大屋 定晴 先生

現在の学生は、授業のほとんどをオンライン形式で受けてきました。2022年5月以降、対面形式に切り替わった授業が増えるなかで、学生はどんなことを感じているのでしょうか。1年生から4年生までそれぞれ違う状況に置かれてきた学生の皆さんに、授業形式と、課外活動や就活の現状について率直に語ってもらいました。

※座談会は、換気や消毒、マスク着用などコロナ対策を万全にした上で実施しました。[2022年6月13日に実施]

## 対面授業への楽しみととまどい

**司会** 5月半ばから多くが対面授業となり、どう変化しましたか？

**野呂** 1、2年はゼミ以外オンラインだったので、対面が始まった第1週は疲れましたが、生の講義の面白さを味わえて楽しいです。対面はオンデマンド（録画）と違い聞き逃したら終わりなので、集中力と緊張感を持ちつつ楽しんで授業を受けています。

**甲部** 私は1年のとき対面、2、3年がオンライン、今は対面が9割です。オンラインだと就職活動やアルバイトを軸にできるので、私には受けやすかった。今は授業時間に合わせなければならず、まだ慣れないです。集中の度合いは対面のほうが高いですが、授業によってはまわりの音が気になり集中できないことがあります。

**高松** 入学時からゼミと語学以外はオンラインでした。最初は楽かなと思っていましたが、課題でわからないところがあっても聞ける友達がないのがつらかった。テストは解答が正誤だけで解説がない場合もあり、なぜ間違いないかわからないままのこともありました。

**野村** 4月は入学した実感がまったくなく、自分が本当に大学生なのかかわからなくなりました。5月に半分くらい対面になってやっと実感がわいてきた感じです。オンライン授業は大学で初めて経験しました。最初はLMS\*の使い方が全然わからなくて大変でしたが、インターネット上にアップされた手順を見ながら進めることができたのは良かったです。

**高松** 今年からLMSが変わったので、僕もわからなくて混乱しました。

**司会** 教員も混乱しました。みんな1年生と同じですね（笑）。

\*LMS：学習管理システム。出欠確認や課題提出、オンデマンド（録画）授業の視聴などができる。

## 課外活動とアルバイトへの影響

**司会** 課外活動での変化はありましたか？

**野呂** ラグビー部ですが、入部当初からコロナ禍で活動が制限されています。今も全員で集まることができず、辞めたり新人が入ってこなかったりして部員が減っています。大学からも活動計画書や報告書、対策シートなどの提出が練習のたびに求められるので、幹部はかなり負担だと言っていました。

**野村** 私はサイクリング部です。毎年数人ほどだったのが、今年は1年生が20人も入ったそうです。コロナ禍で高校時代にサイクリングが流行ったからかも。私はもともとサイクリングが趣味だったので、大学のホームページの部活・サークル紹介を見つけて入部しました。部活は自由参加で、マスクや消毒、検温はしていますが、かなり自由に活動できていると思います。

**甲部** 私は1年のとき軽音サークルでしたが、コロナ禍になると同時くらいに辞めました。そのときの友達とは遊んだり、就活の状況を話し合ったりしています。

**高松** 僕は中・高と陸上部でしたが、高3のときコロナ禍になって部活が制限されました。練習ができなくなり記録が落ちたのを感じたので、この状況が大学でも続いて部活ができないならやる意味もないと思い、入部しませんでした。

**司会** 大学での課外活動は、高校時代の体験の影響が大きいですよね。では、アルバイトの状況はどうでしょう。

**甲部** 3年の5月から食品販売のバイトをしています。1年のときは飲食店のホールで働いていましたが、お店が入る商業施設



よさこいソーラン祭りに参加した本学“絆”1年生

がコロナ禍で休館したため辞めました。2年のオンラインが始まった時期は出費もあまりありませんでしたが、就活時期には月1で東京へ行っていたので、交通費を稼ぐのにバイト代だけではかなり厳しくて、毎月赤字でした。

**野呂** 札幌ドームでイベントスタッフをしています。バイトを始めた3年の春は、コロナの規制がゆるみイベントが多い状況でした。僕は奨学金を借りながら一人暮らしをしていて、返済を考えると奨学金には手を付けたくありませんでしたが、バイトがないときは生活費にあてていました。国の「学生等の学びを継続するための緊急給付金」は助かったので、こうした給付金をもう少し増やしてほしいです。大学の食糧支援も2回ほど利用して、かなり助けになりました。

**高松** 僕は今年の1月から居酒屋でバイトをしています。仕送りはなく貯金が底つきそうだったので始めました。それなのにコロナで3月ごろから休業になり、一時は収入がなくなってきつかったです。大学の食糧支援は知っていましたが、対面授業がないのに大学まで行くのが面倒で利用しませんでした。

**野村** 今はパン工場で働いていて、5月までは飲食店でした。いろいろな業種で働いてみたいと思い転々としています。高校時代に地元でバイトしていたときコロナによる制約はなく、今も、私のまわりではコロナでバイトに支障があるという話は聞かないです。

**司会** 今の1年生はコロナの影響があまりないようですね。学生のアルバイト状況が全然わからなかったのが参考になりました。



合同基礎ゼミ



Everyday



●司会/社会学  
菊田 悠 先生



●司会/英語リーディング  
榎木 貴之 先生



●佐藤教統ゼミ4年  
甲部 佑貴さん



●平野ゼミ3年  
野呂 優太さん



●越後ゼミ2年  
高松 大樹さん



●II部菊田基礎ゼミ1年  
野村 優花さん

ECON. STUDENTS

### 就活は3年の早めが勝負!

**司会** 次は就活について。4年生の甲部さんはどのように進めたのですか?

**甲部** 東京での就職を希望していて、しかも文系は早めに動く傾向があるので、3年の5月には始めていました。活用したのが外部の就活支援団体です。内定もらった先輩が個別についてくれて、アドバイスを受けながら自己分析を行いました。インターンシップへ行くべき企業も教えてもらいました。エントリーシートは、夏休み前に1社に出してみても感触を掴んでから複数の会社に出しました。夏休みには20社くらいインターンシップに行き、秋には10社くらいに絞って、さらに冬には業界も業種も絞って、というふうに進めました。

**司会** 東京で就職となると、3年から就活を始めなければならない?

**甲部** 首都圏の大学では1年からインターンシップに行っている人が半分くらいいるので、焦りはあります。企業側もインターンシップを1、2年生対象、3年生対象と分けて受け入れています。また、優秀な学生をほかより先に採用するために早期選考を行うところもあります。

**司会** 学年ごとにインターンシップの募集があることを初めて知りました。大学のキャリア支援センターの利用は考えなかった?

**甲部** ゼミの先生に勧められましたが、オンライン授業で学校に行くのもあまり気が乗らなかったんです。今、キャリア支援セ



学内企業説明会

### 2022 新入生キャンパスライフ



新人戦準優勝の軟式野球部1年生



4号館前で記念写真



感染対策がとられた学食

ンターで就活を進めている人に聞くと、全然予約できなくて、エントリーシートの添削してもらえないようです。結局、個別指導してくれた先輩のおかげで早く進められたと言えます。ただ、その先輩は私が志望する業界の人ではなかったので、就活が進むにつれてミスマッチを感じる部分もありました。

**司会** 3年生はどうですか?

**野呂** 僕は公務員の国家一般職志望です。5月から大学のキャリア支援センターを介してインターンシップ活動を始めました。公務員の場合は少ないのですが、北海道警察や北海道財務局に申し込みました。別のルートで地元の帯広市役所にも申し込みを終えて、今準備しているところです。

**司会** 3年でインターンシップに参加し、4年の6月の採用試験の準備を平行して進めて夏ぐらいに決まれば、という感じですね。業界によって就活の進め方が違うな。

**野呂** 3年の今ごろからインターンシップを考え始める人は多いと思います。

### 求められる対面とオンラインの選択

**司会** 最後に、大学への要望を聞かせてください。

**甲部** 授業形式をもう少し柔軟にしてほしい。対面だけだと就活で遠くに行く機会が多い人は授業に出られないし、どうしても就活の幅が狭まってしまいます。私の場合は東京で就活しながらオンラインで単位も取れたし、すごく助かりました。(次頁に続く)



特集座談会の様子

**司会** 大学の授業は対面を基本とするように文部科学省から指導されています。本学も同じ方針ですが、ニーズに合わせて形式が選べる余地があってもいい、ということですね。

**高松** 対面とオンラインを選べたほうがいいというのは僕も思います。この1年でオンラインに合わせた生活になったので、一気に変わるとバイトも時間を合わせなければならぬし、自分のペースで生活できないと感じてしまいます。

**野呂** 僕は対面の授業が多くなってもいい。入学時からオンラインで、試験も全部オンラインだったのですが、今年は対面での試験があるので頑張りたいです。

**野村** 私もし入学したばかりなので対面を増やしてほしい。2部の人と関わる機会がと

ても少なく、授業で誰かと話したいというのが一番大きいです。ただ、たしかにオンラインもいいところがあるので、選択できたら受けやすいと思います。

**司会** 今後、対面を基本としながらもオンラインの良いところを維持できるようなシステムづくりが進めば、コロナの経験がプラスに生きると感じます。また、1年生はまず人間関係を作りたいなど、学年によって求めていることが違うようです。学生は、毎年状況が変わっていく中で4年間を過ごすのは大変だと思います。みなさんの話を聞いて、教員側とお互いに良い方法を模索できれば、と強く思いました。



写真上① OBを講師に、オンラインによるフロンティア講座 ②二部合同基礎ゼミ ③基礎ゼミレクリエーション



写真左から、菊田悠先生、高松大樹さん、野呂優太さん、甲部佑貴さん、野村優花さん、柁木貴之先生

## NEWS 1

### 2021年度江川賞授賞式

2021年度4年生6名に江川賞! 2022年3月7日

この春に卒業した学生から提出された52本の卒業研究論文には、教育労働、ふるさと納税、子育て女性、夕張再生、再生可能エネルギー、外国人労働者、お笑い地域おこし、高齢者の貧困、豪雪のまちづくり、日韓関係の変容、十勝畑作農業、など多様な論点がみられ、経済学部の懐の深さが窺えました。これらのなかで内容が秀でていてと評価された6名にたいし、去る3月7日に江川賞が授賞されました。この6名のうち最優秀論文と認定されたのが小山内星絵「信頼ゲームによる公務員の信頼性分析」で、石井学部長の評言によると、ここでは行動経済学の信頼ゲーム実験を手がかりに集めたデータが複数の統計手法によって分析されています。

卒業研究は、経済学部での勉学・研究の集大成ともいえます。学生のみなさんが、おのおのの関心や問題意識をもとに、貪欲に取り組むことが大いに期待されます。

(卒業研究委員 水野)



写真上、石井健経済学部長から最優秀論文の表彰状を受ける小山内星絵さん。左は卒業研究論文要旨集



卒業研究論文優秀論文「第3回江川賞」授賞式(3月7日)。表彰された皆さんと石井健学部長(中央)と担当教員の佐藤敦純准教授(左)と濱田武士教授(右)。卒業研究論文要旨集は下記URL掲載 <https://econ.hgu.jp/publication/docs/seminar-abstracts-2021.pdf>

## コロナ下の学生生活・アルバイトから

大学生のアルバイト問題をテーマにした調査・研究に取り組んでいます。

第一に、コロナも3年目を迎え、学生のアルバイト状況には落ち着きがみられます。それにしても、まさか学生たちに、休業手当の支払い（休業時の所得補償）制度について、かくもレクチャーが必要になるとは思っていませんでした。それまでは逆に、人手不足を背景にして勤務に勝手に入れられるという相談が多かったのですから。ちなみに休業手当不支給の背景には、勤務日や勤務時間が一定期間ごとに確定される、いわゆるシフト制勤務をめぐる問題があります。勤務が確約されていたわけではないのだから、というわけです。シフト制労働と休業時の所得補償——ことは学生アルバイトだけに限らぬ非正規雇用問題の重要争点として浮上しました。

第二に、とりわけコロナの初期に、アルバイトを学生ができぬことで休退学の危機が叫ばれました。このことは年輩の方々にはもしかしたら奇異に思われたかもしれません。アルバイトができぬからといってなぜ休退学に？と。しかし、今日の大学生の学費は、保護者による負担のほか、将来返済が必要な（いわば借金である）貸与型奨学金やアルバイト収入に依存しています。授業料等の減免や給付型奨学金で構成された高等教育の就学支援新制度がコロナと重なる2020年度から開始されたとはいえ、全ての学生に行き渡るにはまったく不十分。高等教育に投じられた予算が少なすぎます。学内で始めた食糧支援を多くの学生たちが利用しているのも、彼らの困

窮が水面下で広がっていたことを示唆します。

最後に大学運営のことを。対面授業からオンライン授業への急転、部活・サークル活動の自粛など、様変わりした大学生活もコロナ以前に戻りつつあります。キャンパス内の賑わい、学生たちの元気な姿をみるとほっとします。それにしてもコロナ下では、当然のことながら学生たちには学生たちなりの意見や要求があって、中には、教職員との間に緊張感をほらむ内容のものもあったな、と思い起こしています。大学運営の構成員であるはずの彼ら学生たちを顧客・客体ととらえてしまっていないかと自戒。

「パンデミックが僕らの文明をレントゲンにかけている」(パオロ・ジョルダーノ『コロナの時代の僕ら』早川書房) ことがあらゆる領域でリアルに感じられる中で、ポストコロナの大学や社会を学生たちと構想していきたいと考えています。



\*川村ゼミが作成した「学生アルバイト自書2020」。「自書2021」も含めて北海道労働情報NAVIに掲載。QRコードでアクセスできます。



## NEWS 2

### 合同基礎ゼミ講演会を開催

二部テーマ「研究とは」2022年5月12日・一部テーマ「アルバイト」7月4日、5日

木曜2部の合同基礎ゼミで、「研究とは」をテーマに、本学学部の野口剛先生と上園昌武先生からの講演を行いました。野口先生からは、ご自身の学生時代のバイト生活から税への関心が高まり、企業勤務を経て研究生活に至った経緯や、地方の法人税、国際的な法人課税でどんな課題があるか、など現実の研究課題が紹介され、皆熱心に聞き入っていました。上園先生からは、脱炭素社会をめぐる意識や実現性について、参加学生の挙手や日本が多い「脱炭素は生活の質を脅かす」の回答を分析され、では具体的に「どう脱炭素社会をつくるか」という問題意識から、ご自身の今の研究課題について紹介されました。大学の研究とは、高校までの答えが決



まっている内容とは異なり、自由な中で問題解決のために挑む営みだ、との感想があり、学問というものを知るきっかけとして、意義のある企画となりました。(山田)

月曜1部の合同基礎ゼミでは、本学経済学部の川村雅則先生による講演を行いました。講演内容は、学生にとって身近な「アルバイト」を共通テーマとして、「ワークルール(働くうえで必要な知識を身につけること)」、「研究テーマを見つけること」、「アカデミックスキルを身につけること」の3点でした。ワークルールでは、学生アルバイトでも有給休暇の取得が可能であることなどが紹介され、身近ながら知らない学生も多い様子でした。

研究テーマでは、最低賃金が地域によって異なるのはなぜかといった疑問を例に、「身近なことが研究テーマになること」が説明されました。

アカデミックスキルでは、学生同士でアルバイトについて聞き取りを行い、アンケート調査の結果や大学生の内定率に関する新聞記事を見ながら、「数値の読み方」、「統計リテラシー」についてお話いただきました。

学生は、身近な例ということからも、とても熱心に聞き入っていました。

(鈴木)



## コロナ後のインバウンド観光は どうなる？—北海道から アジア、世界を考える



**宮島 良明** 経済学部教授  
みやじま よしあき

<略歴>  
[担当科目: 国際経済論]  
東京大学社会科学研究所助教、北海学園大学経済学部講師、准教授を経て、2018年より現職。

●専門は世界経済論、アジア経済論、とくに東アジア地域の域内貿易の研究。近著に「転換期を迎えるタイと中国・CLMVの貿易」末廣昭など編『アジアの新たな地域秩序と交錯する戦略: タイとCLMV・中国・日本』東京大学社会科学研究所・現代中国研究拠点・研究シリーズNo.21、2020年などがある。

●<参考文献>  
・宮島良明[2019]「インバウンドブームと北海道観光: 訪日外国人観光客急増の背景と今後の課題」『開発論集』(北海学園大学開発研究所) 第103号。

・宮島良明[2020]「新型コロナウイルス感染拡大の訪日観光客への影響: インバウンドブームからコロナショックへ」東大社研現代中国研究拠点編『コロナ後の東アジア』東京大学出版会 (UP plus)。

・宮島良明[2021]「コロナ後のインバウンド戦略は地域を結ぶ『DMO』がカギ」『文藝春秋オピニオン 2022年の論点100』文春ムック。

### インバウンドブームからコロナへ

2022年夏、2年以上続いたコロナのトンネルから、ようやく抜け出そうとしています。これまでコロナ感染拡大を防止する目的で、とくに日本では「自粛」が続きましたが、これにより、もっとも大きな影響を受けたのが、旅行業、飲食業などのいわゆるサービス業でした。とくに、コロナの前まで、空前のインバウンド(外国人観光客)ブームに沸いた日本各地の観光地、観光産業は、まさに「山高ければ谷深し」の状況でした。図表は、訪日外国人数の推移を示したグラフです。2013年ごろから増え始めた訪日外国人数は、ピーク時で1か月300万人に達する勢いでしたが、コロナの世の中が始まった2020年4月には「ゼロ」になってしまいました。外国人観光客向けに、お店を改造したり、ホ

テルを増築したりして対応してきた観光業界にとって、どれほどのショックだったかがわかります(詳細は宮島[2020]を参照)。

### 研究の出発点

そもそも、なぜ、こんなにも多くの外国人観光客が、日本にくるようになったのでしょうか。理由は、いくつか考えられます



## 大学、ボランティア、アルバイト… さまざまな人と出会って視野が広がった。

029  
OB 訪問  
働きマン



札幌市中央消防署 警防課消防一係

**三宅 泰平さん**

みやけ しんぺい

### ●2年の秋に決めた「消防士」の目標

小学3年で野球を始め、ずっと野球一筋に打ち込んできましたが、大学2年の秋から就職を意識するようになり、消防士を目指すことにしました。単純ですが、カッコいい仕事だと思ったからです。

硬式野球部を早期退部して、まず大学の公務員講座を受講しました。大原や東京アカデミー、LECなど、大手就職予備校から専門の講師が来てくれるので、いろいろな先生に教わるのが魅力でした。

3年次には東京消防庁のインターンシップに応募して、3日間、就業体験をさせてもらいました。事前に選抜審査があったのですが、受かったのは大学のキャリア支援センターの方が志望動機の書き方を丁寧に添削してくださったおかげだと思います。

また、就活の支援団体「エンカレッジ」を通じて、実際に消防





写真①「歌登パーティー」を楽しむタイ人観光客、2015年10月6日。②多くのおみやげを購入する外国人観光客。新千歳空港の国際線ターミナルにて、2019年2月21日。③観光客が“まったく”なくなった関西国際空港、2020年10月23日。④シャッターが閉まっているドラッグストアが集まる大阪心斎橋筋商店街、2021年10月11日。\*撮影は全て宮島良明先生

(詳細は宮島[2019]を参照)。が、もっとも重要な背景としては、アジアの人たちの所得が、この間の経済成長により海外旅行ができるぐらいに上昇してきた、ということがあげられます。コロナ前、日本に来ていた外国人の約9割は、アジア諸国のひとたちだったからです。「アジアのひとたちの所得が上がったから？」そう言われても、高校生のみなさんは、あまりピンとこないかもしれません。たしかに、BTS(バンコクの高架鉄道ではありません…)にしろ、アリババにしろ、タイドラマにしろ、アジアに「貧しい」というイメージは、もうありません。

私が大学生だったころ、世界銀行から『東アジアの奇跡』(1993年)というレポートが刊行されて、アジア経済の急成長に注目が集まるようになりました。それまでは「貧困のアジア」としてのイメージが強く、経済学部の講義でも、アジア経済については、「開発」経済学や「発展途上」国論のなかで議論されることが多かったのです。

もちろん、現在でも、世界(アジアを含む)には、多くの開発途上(場合によっては貧困)の国・地域があります。そのようななかであって、なぜ、アフリカでもラテンアメリカでもなく、アジアでだけ経済成長が続いたのでしょうか。私の研究は、ここが出发点です。

### アフターコロナのインバウンド観光

さて、コロナ後のインバウンド観光はどのようになるのでしょうか? アジアからの観光客は、再び日本に戻ってくるでしょうか? 結論から言うと、私はコロナが終息しさえすれば、また多くのアジアの観光客が日本を訪れるようになると、確信しています。それは、日本のインバウンドブームの主役であるアジアの観光客が、私たち日本人と同じように、この2年間、海外旅行に行くのをずっとガマンしている状態だからです。

ただし、観光というのは、とても競争の激しい産業です。北海道観光といっても、

競争相手は、沖縄や京都など国内の観光地だけではありません。万里の長城かもしれませんし、アンコールワットかもしれません。世界の観光地と競争をしなければならないのです。いまはいいかもしれませんが、ブームはいつか必ず終わります。持続可能なインバウンド観光に向けて、いまから新たな戦略が必要かもしれません(詳細は宮島[2021]を参照)。ここでは2つのことを提案しておきたいと思います。1つは、もう少し地域的な広がりを持った観光戦略、言い換えると観光地の広域連携が必要ではないかということです。日本各地、道内各地、個別に努力を続けていますが、都市部以外では、外国人対応をスムーズに行うことが困難な場合もあるからです。2つ目は、インバウンドブームをうまく利用して、各地域の異文化交流、異文化理解をさらに進める機会としてはどうかということです。日本政府は、観光を次代の成長戦略のひとつとしているのですが、なにも成長するのは、「経済」だけではないはずですから。



写真左上、札幌中央消防署で乗車する消防車の前で。下は消火作業の訓練、右写真は消火活動に使用するチェーンソーの始動点検を行う三宅さん

士として働く方とお会いすることもできました。誇りを持って働く姿に感銘を受け、自分もこんな社会人になりたいと、思いがさらに強くなりました。

学生のうちから防災の活動にも参加してみようと、地域の消防団にも入団。消防団の大会に向けて訓練したり、冬は消火栓の除雪ボランティアをしながら、年配の団員の方々とも交流を深めることができました。

#### ●日々の訓練の成果を現場で発揮

卒業に必要な単位は2年生までにほぼ取り終わったので、3年からは採用試験対策に集中。札幌市の消防吏員の採用試験に無事合格して、大学卒業後は消防学校で半年間みっちり訓練を受け、修了後に中央消防署に配属されました。

防火衣を着るだけで10キロ、空気呼吸器やポンペを背負うとさらに10キロ。約20キロの重さを身につけて機敏に動けるように、毎日訓練があります。もちろんうまくできないこともあります。訓練は実際の現場でしっかりできるようにするためのもの。だから自分は訓練の失敗でいちいち落ち込まないことに決めました。

とはいえ実際の火災現場に出動するときは、やはり緊張します。訓練は実際の火災を想定したシミュレーションですが、実際の火災

現場はもっと暑いし、煙の量や濃さがすごくて…。それでもなんとか動けるのは日頃の訓練の成果だと実感できました。

#### ●簡単な道より挑戦を選ぶ

勤務は朝8時45分から翌朝8時55分まで、仮眠を含めた24時間。シフト勤務はハードですが、オンとオフのメリハリをつけるようにしています。休日は冬ならスキーやスノーボード、夏なら登山やキャンプ。今年からトレイルランも始めました。職場の軟式野球チームにも所属して、大好きな野球も楽しんでいます。

自分の大学時代を振り返って思うのは、さまざまな人と関わったのが良かったということです。同年代の友達だけではなく、サークル、アルバイト、地域の消防団、就活支援団体、公務員予備校など、多方面のコミュニティに参加して、視野が広がりました。いろんな年代のさまざまな人の人生に触れることで、多様な考え方を理解できるようになったと思います。

自分が常に意識してきたのは、迷ったときは簡単な道より挑戦を選ぶこと。これからも挑戦を続けて、将来は災害現場で指揮をとる水槽隊長になりたいと思っています。



●1998年生まれ、札幌丘珠高校出身。2021年3月に本学経済学部経済学科を卒業。札幌市職員(消防吏員)に合格し、消防学校を修了後、中央消防署勤務に配属された。

# NEWS 3

## 第7回・第8回食糧支援が開催される

2022年2月20日・6月12日

2022年2月と6月に第7回、第8回食糧支援が開催されました。毎回500人近い学生が申込み、学生自治会や生協学生スタッフを中心となって食糧配付を行いました。運営スタッフの中から今号は松岡龍陸さん(地域経済学科4年)をご紹介します。(佐藤信)



二部自治会執行部 松岡 龍陸さん

私が食糧支援に興味を持ったのは、2回目(2021年1月)の開催からでした。当時はコロナウイルスが猛威を振っていたため、学生としての活動はほとんどできていませんでした。そんな中、食糧支援に参加し、「支援される側」ではなく「支援する側」に立ちたいと感じたのがきっかけです。

いざ運営する側に立ってみると、食糧支援は大学生協や地域生協、地域住民の方々など、極めて多くの協力の上に成り立っていると感じました。そのため、私はその期待に応えられるよう、毎回の活動に尽力してきました。食料品を受け取る学生を見ていると、全員が全員その食料品を貰っていくわけではありません。一人暮らしの学生と実家暮らしの学生では、希



毎回の食糧支援会場となる北海学園生協食堂と準備を行う運営スタッフの皆さん

望する食料品は大きく異なります。いかに余りを出さずに学生に対し均等に食糧を配布できるのか、どのようにして学生の需要に効率よく応えていけるのかという点が、今後の食糧支援を続けていくうえでの鍵になると考えます。

二部自治会執行部 松岡 龍陸(地域経済学科4年)

# NEWS 4

## 2022年度3年生の就職活動について

2021年度 北海学園大学「人材ニーズに関する調査」(北海学園大学キャリア支援センター)

22年卒業生の内定率は、1部92.3%、2部83.7%となり、昨年度の94.6%、93.8%からそれぞれ低下しました。2部は10ポイントの減少となりましたが、母数が小さいことによる影響もあり、未内定者7名の増加となっています。求人状況としては、札幌その他道内はここ数年横ばいですが、関東圏以外の道外での求人が増加傾向にあります。このような変化に対応するためには学生のより積極的な活動が期待されますが、コロナ禍での自粛期間が長かった影響もあり、現3年生の動き出しの遅さが心配されています。就職活

動において3年生の6月から2月までは準備期となっており、その後のエントリー期へスムーズな移行のためにはこの時期の十分な準備が欠かせません(下図参照「人材ニーズに関する調査」キャリア支援センター)。パソコンを開けば必要な情報がLMS上に提供されている期間が長く続きましたが、就活においてはそうはいきません。全経済学部生の奮起を期待します。

(逸見)

1部2部の違いはあまり重視されず、エントリーシート、一般常識、仕事・業界の理解は最重要。Webテスト・筆記試験(基礎学力)はアルバイト経験、サークル活動を超える結果に。調査対象 公務員24団体、民間企業275社

